

昭和の神戸

中学1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在校生のみなさんもご進級おめでとうございます。新学期、気持ちも新たにがんばっていきましょう。さて、発表があった通り、1ヵ月後の5月1日から新しい元号「令和」に変わりますね。慣れ親しんできた「平成」とも4月でお別れ。思い返せば色々な出来事がありました。そういえば、もう1つ前の「昭和」はどんな時代だったのでしょうか？今回は神戸の街に特化して、昭和の景色を見てみたいと思います。

まず最初の写真はメリケン波止場。神戸港は1868年1月1日の開港以来、海外に開かれた港町として発展を続けました。ポートタワーは1963年11月にオープン。神戸港開港90周年を記念して建てられました。高さは108m、赤い鼓形でとてもキュートです。メリケンパークは開港120周年の1987年に完成。メリケン波止場を埋め立てて造られました。そして150周年の2017年、メリケンパークはリニューアル。今ではお馴染みの「BE KOBE」のモニュメントやスターバックスが登場しました。神戸市のオンライン広報「ごろごろ、神戸」の第14回、「メリケンパーク、行くのがめんどくさい問題」の記事には、メリケンパークのゆるっとした空気が再現されています。コーヒーを飲んだりバドミントンをしたり、親子連れや友達同士が多く見受けられるこの公園。メリケン波止場時代は「解だまり」として使われていました。「神戸は港でもち、港は解でもつ」と言われた時代のことでした。

明治から昭和初期にかけて、北野町には200棟あまりの異人館が建てられました。その異人館と旧居留地を結んだのがトアロード。「トアロード」の「トア」は昔存在した「東亜ホテル」が由来。近くには風見鶏の館、北野天満神社、ムスリムモスクなどもあり、異国情緒たっぷり。

そんな場所に松蔭に深く関係した場所があります。その名も「北野三本松」。この三本松の近くに校舎があり、三本松の蔭に隠れることから名づけたと言われています。今は松そのものはありませんが、「松蔭女子学院発祥の地」の碑がありますよ。

かつて神戸には百貨店が三越、大丸、そごうの3店あったこと、映画館がたくさんあったこと、新開地に神戸タワーがあったこと、今まで知らなかった神戸の街の歴史が垣間見られたようで、とてもおもしろい1冊でした。現在も神戸市庁舎の移転や、阪急三宮駅・JR三ノ宮駅ターミナルビルの工事、新港突堤西地区の再開発など、日々変化している神戸の街。いま私たちが見ている風景も、何年か後には懐かしいものになっているんだろうなあ、と思います。いつか「平成の神戸」が出版されたときには、こんなお店あったなあ、とか、こんな服流行ってたよねえ、と懐かしんでみたいですね。